

支えてくださる皆さまへの感謝を忘れずに

～卒業を迎える3人の抱負～

来春、大学や大学院を卒業し、新たなライフステージに進む3人の支援生。今までのこと、これからの夢、それぞれの想いを語ってもらいました。

私の夢、「母国カンボジアへの貢献」



青山 龍司さん
東京大学大学院 修士課程
2年（カンボジア）

私はタンパク質の品質管理と制御について研究しています。今年3月から就職活動を始め、さぼうと21の支援のおかげで、不自由のない就職活動を行うことができました。そして、無事に大手食品メーカーの研究開発職に内定しました。私の就職活動の大きな軸は「母国カンボジアへの貢献」でした。そして、それが私の夢です。

私は日本という異国で多くを経験し、多くを吸収して育ちました。カンボジアでは経験できないことです。そのため、カンボジアの成長に貢献できるのは私のように海外で育った者だと思っています。日本のメーカーがもつ高い技術力がどのようなプロセスで生まれるかを学び、いずれカンボジアの成長に貢献したいと考えています。そのためにも、現在はその土台となる基礎知識と基礎技能の習得に励んでいます。さぼうと21から受けた支援を次世代に還元することこそが恩返しだと考えていますので、立派に還元できるよう、社会人になっても頑張りたいです。

置かれた場で花を咲かせたい

月日が過ぎるのは本当にあっという間で、大学生活も残り半年弱となりました。幸運なことに夏休み前に就職先が決まり、1つ大きな心配事がなくなってからは、「私は将来どうになりたいのか、私はこの世界に何を残せるか」という正解なんてないような事をしみじみと考えていました。他の学生とは少し違った境遇に置かれた私には「日本と祖国、世界を繋ぎ、豊かにする事」が就職活動の軸でした。そんな私にとって、自分と似たような境遇にあった先輩方の「生き方」を示してくれるさぼうと21は本当に貴重な場でした。先輩方の生き方は十人十色で、様々

な可能性を示してくれました。大切な事は自分を箱にはめて考えず、色々な選択肢がある中でどうになりたいか選ぶこと、そして選択ができることに感謝することだと思います。支えてくれる方々への恩を忘れずに、選び置かれた場で花を咲かせ続けられるよう頑張ります。



オルム デザイア チリマさん
国際基督教大学4年
(ナイジェリア)

研究開発職として社会に貢献



武藤 真弘さん
慶應義塾大学大学院
修士課程2年（ベトナム）

大学では最近話題の人工知能、機械学習を専攻し、料理の献立に適用しようと日々がんばっています。先日、内定式の場でスピーチをする機会がありました。そのスピーチのなかで、入社後は研究開発職として機械学習の研究が続けられる、ひいては社会に貢献できるのが楽しみであること。そして、素直で誠実な心持ちを大切に

ことを話しました。3分間のスピーチは上手くいきましたが、そもそも私は人前で話をするのが苦手でした。大勢の前に立って、視線を感じると緊張してしまう、どれだけ内容を考えてあっても頭が真っ白になる。けれども、さぼうと21の夏期研修会や研究発表会を通して、特に大学生になってから発表したり、誰かに何かを伝えたりすることで徐々に成長できました。これから修論発表、そして社会人として様々な場に登壇する機会があるでしょう。そのとき、さぼうと21で培った経験を自信にして堂々と話せたらと思います。

さばうと21夏期研修会（農業体験プログラム） 「グリーンツーリズムを通じた多文化共生推進事業」実施報告 —「平成28（2016）年度日本郵便年賀寄附金配分事業」—

毎年、日本各地に住む外国出身の学生が集まる「夏期研修会」。近年は「進路選択」をテーマに、日本の教育制度や就職事情に関する情報不足や言葉の壁などに悩む学生たちが、将来に対する視野を広げることを目指してきました。

昨年の研修会後、「自分が住んでいる地域のことが知らないの、他の地域の外国出身者の状況を知りたい」「農業や林業など、地域社会の産業に関心がある」等の声を受けました。そこで、多様な背景をもつ

た外国人住民が多く、農業が歴史的に盛んな栃木県大田原市での「農業体験プログラム」を企画しました。

ベトナム、ミャンマー、ペルー、ブラジルなど11カ国出身の51名（当会の生活支援生や栃木県在住の外国人学生など、主に高校生、大学（院）生）が大田原市と那珂川町の農家14軒に宿泊して農業体験をしました。ほとんどの学生が農業は未経験。最初は緊張した様子だった学生も、最終日には農家の方との別れを惜しみました。

「たくさんの人と出会えて、普段できないようなことが体験できた！」



受入先の農家の方と緊張のご対面！すぐにうちとけ、笑顔がみられるグループもありました。



作業開始！台風で倒れてしまった花、支柱を立てて再度固定しました。



ブルーベリーの収穫のお手伝い！日差しも強く、慣れない作業でヘトヘトになりました。



家族のように温かく迎えてくださり、心もお腹もいっぱい。「また遊びに来ます！」「いつでもおいで」といった声も聞かれました。

外国人住民が比較的多い大田原市ですが、日本育ちの外国出身者と日本人住民が身近に接する機会は少ないと言えます。参加者や農家の方々からは、お互いの状況をよりよく理解することができたという声

が多数寄せられ、「さまざまな来日経緯をもつ学生同士の交流及び、外国出身者と地域住民の相互理解の機会を作る」という目的が達成できたのではないかと考えております。

参加者の声

大きな葉っぱを取るという単純な作業でも、見分けや判断が難しいのと、暑くて大変でした。一年中いろんな野菜を管理していて、農家の大変さを知り、いい経験になりました。（高校生）

農家さんは高齢化を心配していて、僕たちが手伝うととても喜んでくれた。喜んでくれたことに対して僕たちもうれしくて、このうれしさを多くの人が共有すれば、農業に興味をもつ若者が集まるのではないか。（大学生）

ほおすきを頂いた時、とても甘くて、いつも食べている野菜でもこんなに違うんだと驚きました。おいしい野菜を知れば、苦手な方も食べられるようになるんじゃないかと思いました。これまでの考えが変わるような経験ができて本当に良かったです。（高校生）

栃木県の外国人住民の割合は？ 県内の日本語教育の現状は？ 農業体験の参加者募集にご協力いただいた宇都宮大学の田巻 松雄先生と国際医療福祉大学（大田原キャンパス）の神山 英子先生から、栃木県に住む外国出身者の状況についてご寄稿いただきました。

田巻 松雄 先生（宇都宮大学 国際学部長）

外国人児童生徒、外国人労働者、都市下層などを研究。近著に『夕張は何を語るか』（2013年）、『地域のグローバル化にどう向き合うか』（2014年）、『越境するペルー人』（2015年）など。

栃木県における外国人住民

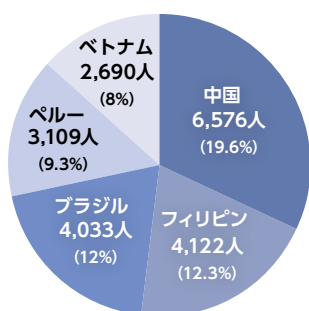
「平成27年末栃木県外国人住民数現況調査結果概要」（平成28年5月20日国際課）によると、栃木県における外国人住民数は、平成27年12月末日現在、112か国、33,547人（県人口に占める割合は1.70%）で、26年末段階より2,279人増加している。

国籍別・地域別状況は、表の通りである。平成26年

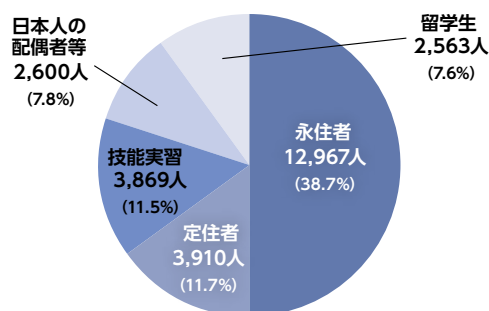
12月末現在との比較では、フィリピン人とベトナム人が増加し、中国・ブラジル・ペルー人は減少している。

在留資格別では、永住者、定住者、技能実習、日本人の配偶者等、留学生在が全体の77%を占める。技能実習生と留学生の増加が顕著である。

国籍別 統計（上位5か国）



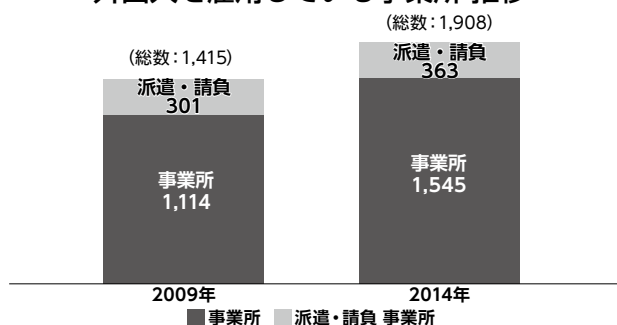
在留資格別 統計（上位5資格）



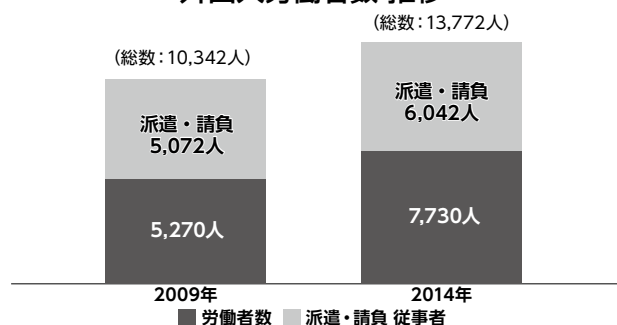
厚生労働省の最新の『「外国人雇用状況」の届出状況のまとめ』によると、2014年10月末現在、栃木県内で外国人を雇用している事業所は1,908あり、そのうちの363が派遣・請負事業所となっている。2009年では事業所1,415、派遣・請負事業所301であり、事業所総数と派

遣・請負事業所ともに増加している。2014年段階の外国人労働者数は13,772人で、そのうち6,042人が派遣・請負労働者数である。2009年では、労働者数は10,342人、派遣・請負労働者数は5,072人であり、やはり増加傾向が認められる。

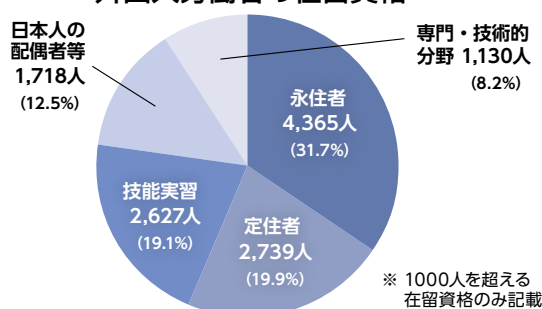
外国人を雇用している事業所 推移



外国人労働者数 推移



外国人労働者の在留資格



2014年の外国人労働者の在留資格構成については、永住者・定住者・技能実習の3つで7割を超えている。

このうち、技能実習は2010年223人、2011年2,413人と推移している。2014年の産業別労働者数は、製造業5,876人、サービス業（他に分類されないもの）4,938人の2つが突出している。サービス業には、建設設計業、デザイン業、法律事務所、労働派遣業、ビルメンテナンス業等が含まれる。

『外国人雇用状況の届出状況のまとめ』から2009年から2014年までの動向をみると、以下のような傾向が指摘できる。

栃木県の外国人労働者の傾向

- ・外国人労働者が持つ最も多い在留資格が「永住者」。
- ・2番目に多い在留資格である「定住者」が減少し、3番目に多い「技能実習」の在留資格が増加している。2位と3位が間もなく交替すると予測できる。
- ・外国人労働者が働く産業の約8割は製造業とサービス業に集中している。
- ・製造業が増加している代わりにサービス業（他に分類されないもの）が減少傾向。
- ・情報通信業、卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、教育、学習支援業における外国人労働者数の変動がとても小さい。
- ・その他の産業で働く外国人が増加している。

栃木県が目指してきた国際化は、「グローバル化社会に対応できる人材の育成」、「多文化共生地域づくりの推進」、「グローバル化社会における地域経済の活性化」の3つの柱とその下での11の施策からなる。これらのうち、「多文化共生地域づくりの推進」の施策の1つとして「外国人も働きやすい環境づくり」があげられている。筆者を代表とする研究グループは、外国人の働きやすい環境づくりを検

討するための基礎的なデータを得ることを目的とする実態調査を全県規模で行った。全県規模での外国人労働者調査は本県では初めてのことである。この調査の中間的な報告については、田巻ほか「栃木県における外国人労働者・外国人の働きやすい環境づくりを目指して-」（『宇都宮大学国際学部研究論集第42号』2016年9月）を参照されたい。

神山 英子 先生（国際医療福祉大学国際交流センター 講師）

大学で留学生に、都立定時制高校で外国にルーツのある生徒に、日本語や日本文化を教える。

栃木県内の中国残留邦人の日本語スクーリング講師や、宇都宮市の外国人相談窓口（中国語）も担当。

栃木県における外国人住民に対する日本語教育の現状と課題

栃木県の外国人住民の総数は約3万3千人、県人口に占める割合は約1.7%で、国籍別に見ると中国、フィリピン、ブラジル、ペルーの4か国で過半数を占め、全体で112の国・地域となっています。（平成27年末現在・栃木県国際課）また、定住化傾向があるため、様々な課題に対して総合的に支援する必要があります。その中には日本で生活するために必要である日本語教育も含まれています。

今年策定された「とちぎ国際化推進プラン2016～2020」には、栃木県の国際化の課題として、「日本語の理解が十分でない外国人住民が安心して生活できるよう、やさしい日本語を含めた、多言語での情報提供を促進するとともに、外国人住民のニーズに沿った日本語教室の実施や日本語指導ボランティアの育成等を進める必要がある。」と書かれています。

私は現在、大学で留学生に、都立定時制高校で外国にルーツのある高校生に、日本語を教えています。また、栃木県内では、宇都宮市、小山市、真岡市で日本語ボランティア養成講座の講師をしています。日本語教育に関わって、25年ほどになり、対象者も小学生から90歳まで、在留資格も様々でしたが、この時間が長いとも短いとも思いません。ただ、自分に関わる全ての人々が、「日本語」という道具で、生活の質を高め、自分らしく生きてほしいと願っています。

日本語教員が最も大切にすることは、日本語学習者のニーズとレディネスの把握です。この2つがわからないと、学習計画が立てられません。今、目の前にいる日本語学習者が何を求めて日本語を勉強しに来ているのか（ニーズ）、日本語学習者が今までどのような経験をして、今、どのような環境にいるのか（レディネス）は日本語を教える上で、とても重要な要素なのです。例えば、日本語ボランティア教室に来る主婦には地域に密着した生活に必要な日本語を（時には方言も必要です。）、留学生には大学の授業で必要な日本語を教えていくわけです。

栃木県には、いくつかの工業地帯があり、そこで働く外国人住民が多いのが、特徴と言えます。また、技能実習生も増えてきたことから、「日本で働くこと」と「日本語教育」をつなげて、日本語指導をすることが必要となりました。栃木県内の日本語教育の現場では、地域の日本語ボランティア教室でも、留学生用のテキストを使って、指導することが現状でも多いようです。留学生用のテキストを使うこと自体問題はありませんが、それだけでは「日本で働く」日本語学習者のニーズには応え切れません。そこに、日本語学習者の「日本で働く」ニーズのエッセンスをどれだけ指導内容に入れられるかという課題に向け、地域日本語教室に携わるメンバーで、試行錯誤しながら、活動を進めています。

農業体験プログラム

日程	2016年8月22日（月）～8月24日（水） 2泊3日	場所	栃木県大田原市・那珂川町の農家に民泊
主催	社会福祉法人さぼうと21		
協力	宇都宮大学 多文化公共圏センター、株式会社大田原ツーリズム、農家の皆さま、認定 NPO 法人 難民を助ける会		
後援	公益財団法人 栃木県国際交流協会、株式会社 下野新聞社		
助成	日本郵便 年賀寄附金	※この報告は、平成28年度日本郵便 年賀寄附金の配分を受けて製作しました。	

さぽうと21キャリア支援 – Project HEAT –



8月
August

みんなで会社に行ってみよう!

さぽうと21に関わる「難民など外国につながる学生たち」の中にも、高校卒業後、大学や専門学校などへの進学を果たす者が増え、「就職活動」への意識が高まっています。まずは学生たちに「働く」イメージを持ってもらえるよう、「会社訪問」ができないか考えていたところ、「学生たちのキャリア支援のお手伝いが出来れば」と、株式会社セールスフォース・ドットコム様（東京都千代田区）にご協力いただけることになりました。

広い視野をもって、色々なことにチャレンジ!

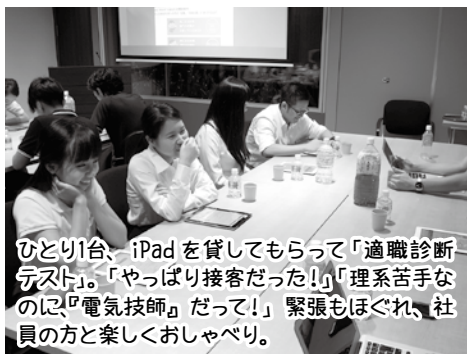
8月9日（火）、7ヶ国15名の学生たちと、東京オフィスを訪問。

当日は、「IT・技術系」、「営業・マーケティング系」、「バックオフィス系」の部署で働く社員の方、10名以上にご参加いただきました。皆さん、大学時代の専攻や前職は様々で、必ずしも今のご専門や業務内容につながるものばかりではありません。

「初めから自分のやりたいことや、可能性を狭めず、広い視野を持って様々なことにチャレンジしてもらいたい」という社員の方、お一人お一人の気持ちがこもった貴重な時間を過ごすことができました。



共 催：株式会社セールスフォース・ドットコム様
米国サンフランシスコに本社があり、クラウド・ソーシャル・モバイルのテクノロジーを企業で活用するためのクラウドアプリケーション及びクラウドプラットフォームの提供を行うグローバル企業です。



ひとり1台、iPadを貸してもらって「適職診断テスト」。「やっぱり接客だった!」「理系苦手なのは『電気技師』だって!」緊張もほぐれ、社員の方と楽しくおしゃべり。



前職は、海外の航空会社で客室乗務員をしていたという男性社員の方。「IT企業で働いているのは、エンジニアだけじゃないんだ!」



来年はいよいよ 就職活動!!

参加者の感想

- 営業の方のお話を聞いて、今までのイメージとだいぶ違い、とても魅力を感じました。何より皆さんは自社の商品に自信を持っているから、前向きに受け入れられるのだなと感じました。（中国 / 大学生）
- 外国で働いていたことや、前の職業と今の仕事の内容がまったく違うということなど、みなさんがこの会社に入るまでの人生を聞いてびっくりしました。（ベトナム / 高校生）
- 海外からの帰国子女の方がいらっしゃる、改めて外国にバックグラウンドがあることは、私の強みであると感じました。（ブラジル / 大学生）

11月
November

わたしの〇年後のキャリア

今年、就職が決まったばかりの学生や、電気や食品、メーカーなど、様々な業界で働く卒業生をスピーカーに迎え、外国にルーツをもつ学生のための交流会を開催します。

- 日 時 11月20日（日）午後2時～4時（予定）
- 場 所 GOBLIN 目黒※ JR 目黒駅東口1分（東京都品川区上大崎2-11-10藤原ビル5階）

外国につながる若者たちの成長

外国につながる「若者たち」の成長を実感することが多くなりました。

■ボランティア交流会

7月23日(土) 夕刻に行われたボランティア交流会には20名ほどが参加。この4月から学習支援室で日本語を勉強しているJさんのお話をうかがいました。幼いころから移動・移住を余儀なくされ、あちこちを転々としながら今に至ったその20数年の日々は、私たちには想像もできないほど過酷なものでした。日常生活の中に当り前のように銃弾の跡を目にし、爆撃音を耳にする、そんな母国を離れて十余年。苦学の末に大学を卒業したJさんは、いつもどこか遠い地を思い描くような表情で語ります。

「日本にいて、今の自分はまだ何も達成できていないと感じるけれど、自分だからこそのできる仕事があるはず。国際協力の分野で力を尽くしたい」



■夏休み集中学習支援教室

夏休み期間中の平日の20日間、明治学院大学白金キャンパスの教室をお借りして、小学校6年生から中学校3年生まで22名を対象に、集中学習支援教室を行いました。朝9時に学習開始、その後、小学校6年生は午後3時まで、中学生は午後5時まで、熱い毎日、ひたすら勉強に励みました。通常の土曜日の学習支援室では、学校の宿題をするので精いっぱいだったりと、復習をするうちにあっという間に時間が過ぎてしまったり、なかなか基礎的な学力をつける時間の余裕がありません。資金援助を申し出てくださる財団があり、また、明治学院大学の「内なる国際化」プロジェクトとの連携により、教室のご提供ばかりでなく、学生の皆さんに講師アシスタントとしてボランティア参加していただきました。さぽうと21初の試みは大きな成果をおさめ、8月31日、無事終了の日を迎えました。

家庭の事情で最終日にたった1回だけ参加という中学生もいました。片道1時間半以上かけて教室までやってきた彼女はこんな言葉を残して帰って行きました。

「勉強のできる大切な一日でした」



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.61 2016.11

社会福祉法人 さぽうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぽうと21は…

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、定住外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治・宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を求めています！

■会 員：法人会費50,000円／個人会費5,000円

■ご寄付：随時受付

■マンスリーサポーター：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぽうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぽうと21 じゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぽうと21 じゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

社会福祉法人 さぽうと21

住所：

〒141-0021
東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル6階

TEL：

03-5449-1331

FAX：

03-5449-1332

E-mail：

info@support21.or.jp

URL：

http://www.support21.or.jp

